

米軍岩国基地に係るマスタープランの概要説明について

本日（17日）防衛施設庁から米軍岩国基地に係る米軍再編後の包括的な施設整備のマスタープランの概要説明のため来庁された旨、担当課より連絡がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1 日 時 平成19年5月17日（木）16：30～17：05

2 場 所 市長応接室

3 説明者 防衛施設庁施設部周辺対策計画官 谷井 淳志

4 当 方 岩国市副市長 大伴 國泰ほか

5 説明内容

- 空母艦載機の岩国飛行場への移駐等に伴い必要となる施設整備については、今般、米側で包括的な施設整備のマスタープランが作成されたところであり、今後、このプランに基づき、具体的施設の規模等について、更に日米間で細部を調整した上で施設の整備を行っていく考えである。
- なお、マスタープランにおいて、基地内の具体的な施設の位置等を明確にした場合、防衛及び警備上の能力を減ずるおそれ等があり、また、米国との安全保障上の関係が損なわれるおそれがあることから、別紙1のマスタープラン図に各施設の具体的な名称は記載されておらず、機能配置をお示ししている。
- 各地区に配置される施設の概要については、以下のとおりである。
 - ・ 「軍需品地区」には弾薬庫など軍需品を取り扱う施設等が配置される。
 - ・ 「運用関連施設地区」には庁舎、管制塔、給油施設など航空機の運用に関連する施設等が配置される。
 - ・ 「輸送ターミナル地区」には輸送ターミナル及び旅客ターミナル等が配置される。
 - ・ 「コミュニティー地区」には隊舎、住宅及び学校などの施設等が配置される。
 - ・ 「支援・サービス地区」には燃料貯蔵庫や倉庫などの施設等が配置される。

- ・ 「既海兵飛行部隊」「既海自飛行部隊」「米海軍空母艦載機飛行部隊」「米海兵隊KC-130飛行部隊」には、航空機の駐機場や格納庫等がそれぞれ配備される。
- 現滑走路は、沖合移設後は誘導路として使用することとしていたが、KC-130部隊及び空母艦載機部隊の駐機場等として整備されることとなる。
- 以前から要望のあった民航ターミナル地域については、日米協議が整ったので、別紙2のとおり位置等についてお示しする。
- 米軍家族住宅については、現在、米側の所要等について確認を行っているところであるが、具体的な候補地については、愛宕山地域の取扱について、山口県、岩国市及び山口県住宅供給公社の間で協議が行われていると承知しており、当庁としては、その結果を踏まえ、検討する考えであるため、本日お示したマスタープランには含まれていない。

6 市の見解

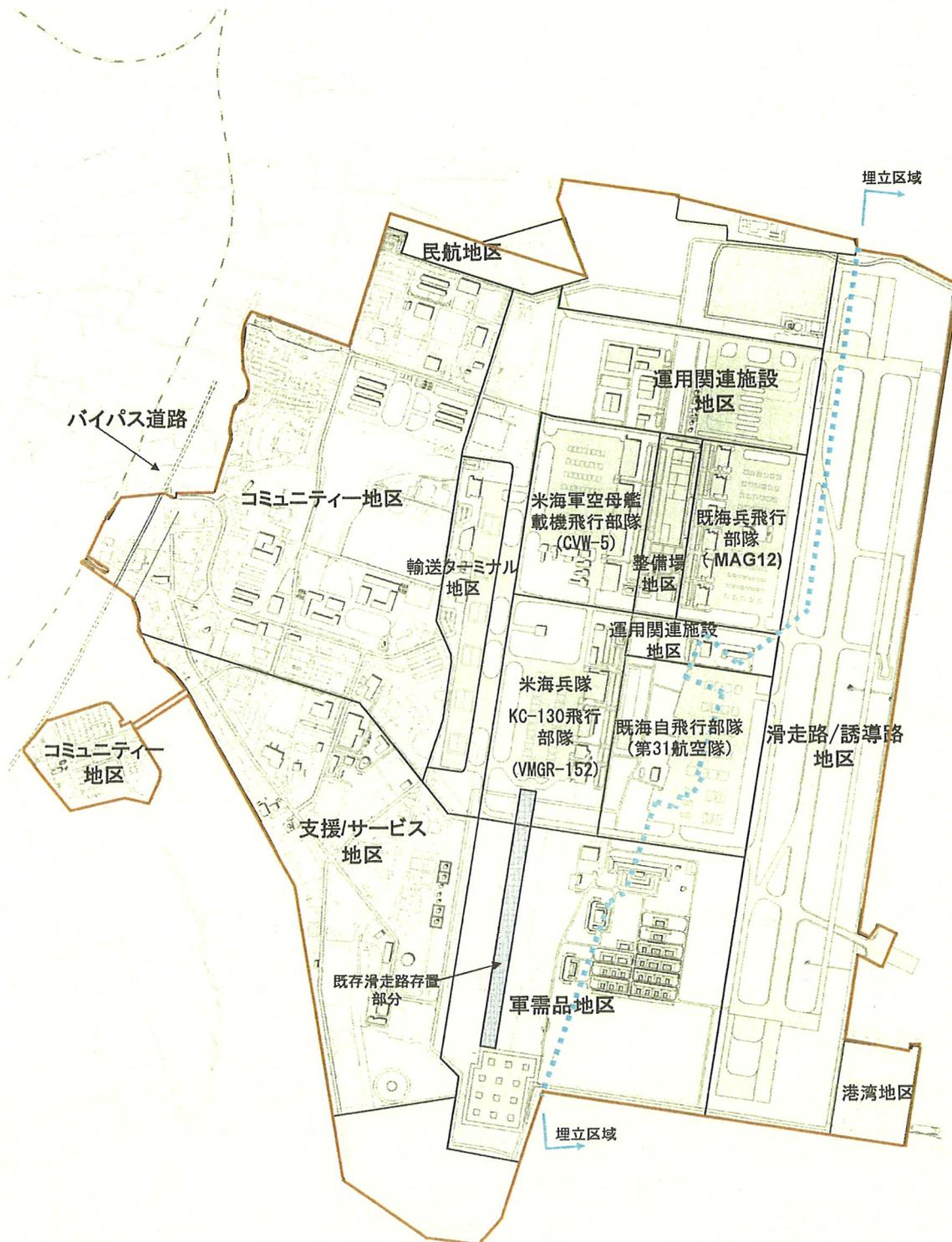
岩国市と事前協議もなく一方的に岩国基地のマスタープランが作成されたことは遺憾である。

再編問題は、市民の将来にわたる安心安全が担保されていない状況であり、今後とも、引き続き、このマスタープランも含めて、疑問点や問題点を徹底的につめていくために国との話し合いを進めていく。

他方、今回、民間空港ターミナル地域の場所が示されたことについては、国の努力に対して感謝している。

岩国市として再編を容認していない状況でもあり、また、民航用地の一部が基地外で確保されたことについて、地元との調整も必要であり、今後、国と協議したいと考えている。

いずれにしても、県とも協議しながら、民空の再開に向け事業に取り組んでまいりたい。



岩国基地の米軍再編後の機能配置図

1:10,000 0 50 100 200 300 400 500 Meters

- ※1 空母艦載機移駐に不可欠な家族住宅及び支援施設は引き続き日米間で検討中
- ※2 現滑走路は新滑走路運用後廃止

——— : 施設の境界を示す

民航ターミナル地域

